



新たなヘルスケアモデルづくりへの挑戦

亀田総合病院名誉理事長 亀田 俊忠様

卓話者紹介

傅 健興会員

先週の5日（木）、カンブリア宮殿で亀田総合病院が紹介されました。千葉県の鴨川で古くから最先端の地域医療を目指し、現在は遠隔医療に全力を尽くして取り組んでいらっしゃいます。

私は、千葉県の鴨川という海辺の村で医家の11代目として生を受けました。医家とは言っても、初期の頃は僧籍を兼ね、漢方医療を提供していたようです。その後、還俗し、蘭学などを積極的に学ぶ一方、寺子屋を開いたり、灌漑用水の設計に没頭するなど常に地域とともに歩んできた歴史が残されています。

明治時代に入ると近代西洋医療への挑戦が始まります。祖父や父からはアメリカの片田舎にあるメイヨークリニックの話をよく聞かされました。田舎でも高度な医療に挑戦できるというのです。

父たち3兄弟は力を合わせ、結核のサナトリウムを皮切りに総合病院の建設に取り組みました。

1982年、31歳で病院長を引き継いだ私は、何が何でも父たちの夢を実現しなければなりません。初登院の日、ホワイトボードに向かって実現すべき個別課題を列挙しました。高度医療の各領域とそれを支えるしくみです。経済的には極めて厳しい上に、人をはじめとするリソースが乏しい中で、大きすぎるほどのチャレンジでしたが、具体的な目標が具体的に明確なので、一つ、また一つと、数年間でなんとか初期の目標を達成しました。ある意味の達成感を感じたことを覚えています。

その頃、米軍病院との医療連携の御縁から、米国の病院を訪ねる機会が多くなりました。そして、訪問先の病院が、医療、教育、施設 マネジメントなどで圧倒的に進んでいることに衝撃を受けたのです。彼我の差がどこにあるのかを観察したところ、米国の病院はどちらも使命、価値観、方針を掲げ、それに基づいた中長期的な計画を策定し、事業を進めていました。個別目標を追うだけではとても追いつけないと感じた私は、体系的な目標管理に取り組むことにしました。早速、家訓を使命、価値観として明確化したうえで、米国のコンサルも活用して、10年後に向けたマスタープランをつくりあげました。当時の私達にとっては大規模で、ハードルの高い計画でしたが、皆で実現すべき目標を共有できたことは大きな駆動力になりました。結局、約16年を要しましたが、マスタープランは完成しました。

また、鴨川の海辺で代々行ってきた亀田医療は現在、ヘルスケアグループとして守備範囲を広げて活動しています。

次に、故郷、鴨川市の新しいプロジェクト「IKIINKIプロジェクト」を紹介いたします。先に紹介した亀田

病院プロジェクトが医療モデルであるのに対し、こちらはいわば健康モデルです。

プロジェクトの目的はもちろん、市民が健康で幸せに暮らせるまちを創ることでありますが、同時に、多くの医師および医療スタッフを惹きつけることや鴨川市のブランドを高めることも狙っています。

プロジェクトの背景には、医療のニーズが、「いかに病気を治すか」から「慢性疾患と付き合いながらいかによく生きるか」という方向に変化していることがあります。この変化に対応するためには、医療のしくみを、いわゆる「出会い頭の医療」から「日頃からの継続的な健康支援」を含むものに変えていく必要があります。

IKIINKIプロジェクトでは、プライマリケアチームが、自ら登録した市民に対し日頃からの健康支援サービスを提供します。プライマリケアサービスは新しい70床の小規模病院をベースとして提供されますが、積極的にITを活用して、リスクに応じたモニタリングやオンライン診療を行います。さらに移動クリニックが地域市民を訪問し、ヘルスケアサービスを提供します。今のところ、2020年度内にサービス提供が始まる予定です。

慢性疾患の管理においてはスマートフォンと連携したモニタリングデバイスの活用には大きな可能性があります。観察されたデータは指標やAIを用いて継続的に評価され、最適な対応が行われます。オンライン診療は、患者および医師の双方にとって、医療サービスのための時間とコストを節約できる可能性があります。慢性疾患の経過観察や、投薬処方においては特に有用です。常に数台のデリバリーカーがチームと専用のアプリで連携をとりながら市内を走り回ります。

さらに、ドローンによる薬剤の配達や自動走行車による送迎の試行なども検討されています。

これまでのいわゆる病院電子カルテでは日常の健康を支援するIT基盤としては不十分です。登録市民の健康データベースを作成し管理すること、そして個人個人を対象とするだけでなく、リスクグループに対する健康支援も重要な課題になると思われます。

近年、日本では出来高払いに基づいた医療費の支払いが保険財政を圧迫しています。IKIINKIプロジェクトの予算は医療費の外に位置づけられます。IKIINKIサービスは市民のより良い健康と医療費の削減を同時に実現することを目指しています。IKIINKIプロジェクトの実効的な効果を示すためには、各視点からの評価指標の設定をし、変化を可視化する必要があります。

また、その際、将来の社会経済的な影響予測に基づいた投資の活用も考えられます。規模は小さくとも、成果を実証できるモデルを作ることができれば多くの市町村に発信することもできると考えております。

創 立 1993年10月13日(平成5年)
 例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
 事務局 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-2-2
 グラントマンション906号
 Tel : 03-3288-7300 Fax : 03-3288-7400
<http://tokyo-orc.jp/>
 E-mail:ocha-rc@sirius.ocn.ne.jp

例会場 ホテルグランドパレス
 Tel : 03-3264-1111
 会 長 : 永井 一史 幹 事 : 西村美智子
 会報委員長 : 松島 健
 会報委員 : 木村・木宮・佐々木・八木・山下